

令和 8 年度内閣官房・内閣府本府等行政事業レビュー「公開プロセス」

日時：令和 8 年 6 月 26 日（金） 14 時 10 分～14 時 57 分

開催形式：オンライン形式

議題：ワクチン・新規モダリティ・治療薬等研究開発事業（基金）

出席委員：南島先生、高木先生、上村先生、山田先生

○吉田企画調整課長 それでは、時間になりましたので、議題 2「ワクチン・新規モダリティ・治療薬等研究開発事業（基金）」に入らせていただきます。

この基金事業の進行につきましては、私、行政事業レビュー推進チームの企画調整課長の吉田が務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

ここからは長岡先生に代わりまして高木麻美先生に御参加いただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、冒頭に部局から説明を行いまして、その後、質疑、議論をお願いいたします。なお、終了予定時刻の 10 分前程度になりましたらお声がけいたしますので、議論と並行して先ほどメールにて送付しましたコメントシートにコメントを御記入いただき、推進チームに御返信をお願いいたします。

それでは、早速中身に入らせていただきます。

まず、本事業を取り上げた視点と議論すべき論点について御説明いたします。

まず、事業選定の理由でございますけれども、令和 7 年度の外部有識者点検におきまして、ワクチン開発と新規モダリティ研究開発の 2 つのロジックモデルについてアウトカム段階の設定にずれが見られる点及び事業全体の整理方法に関する所見が示されたところでございます。また、事業の規模が大きく、政策の優先度が高い事業であることから、事業の有効性や効果等について公開の場で検証を行うことが有効と考えられることなどから、対象事業として選定したものでございます。

次に、想定される論点でございますけれども、今、投映されています資料の表紙にありますとおり、第 1 に、事業目的や事業内容に照らして適切な効果発現経路が設定されるとともに、適切な効果検証の仕組みが確保されているか、また感染症有事における有効性を事後的に評価できるよう、あらかじめ有事の場合の効果測定の考え方も整理しておくべきではないかといった点、第 2 に、令和 7 年度の外部有識者点検での所見も踏まえ、事業全体の整理が適切であるか見直すべきではないかという点、第 3 に、事業目的や事業規模に照らして有効性・効率性の高い事業となっているかという点などの観点から、検証を行うことが有効と考えられます。

また、資料の次のページでございますけれども、参考といたしまして補助金・基金の見直しに関する「点検の視点」5 点と、さらにその下でございますけれども、とりわけ基金

について踏まえる視点を記載しております。

それでは、事業所管部局であります科学技術・イノベーション推進事務局日本医療研究開発機構担当室より事業の説明を5分程度で簡潔にお願いいたします。

○田中参事官 担当参事官の田中と申します。

「ワクチン・新規モダリティ・治療薬等研究開発事業」、ワクチン基金について御説明いたします。

28ページ、お願いいたします。ワクチン基金が創設された経緯になります。コロナ感染症によるパンデミックを契機に、令和3年6月にワクチン戦略が閣議決定されました。この戦略の中で、赤枠で示しておりますが、ワクチン開発への戦略的な研究費の配分が不足していたという課題に対する政策としてファンディング機能の強化の項目が設定され、ワクチン基金が新設されました。この基金事業については各省の縦割りを排した一体的かつ機動的な予算配分を通じてワクチン開発を進める観点から、我々内閣府が主導して事業を進めてきております。

次のページ、29ページをお願いします。ワクチンについてはこの戦略に基づき重点的に研究開発支援を進めてきましたが、上の四角内、こちらにあります。健康医療安全保障として、他国に依存することなく、自立的に国民の健康を確保する能力を維持するため、ワクチンのみならず治療薬、診断薬を含めた自国での製造・確保が必須であり、一連の対応を平時から推進する必要があるとの問題意識の下、戦略を改定することとなりました。

次のページをお願いします。このページと次のページは改定された戦略の全体像を示しております。感染症有事におけるワクチン、治療薬、診断薬等による多層的な対応の観点から、②のファンディング機能の強化の対象として、ワクチンに加えまして治療薬、診断薬が追加されております。

32ページをお願いします。このページは事業を担当しているAMED内の組織であるSCARDAに関する説明でございます。ページの中ほどに記載しておりますが、SCARDAは本事業に加えて研究開発のより基礎部分を支援する事業も担当しております。2.に記載しておりますが、産業界の研究開発状況に精通したプロボストにも参画いただき、研究課題の採択や伴走支援を進めております。

次の33ページをお願いします。このページは事業の概要、全体像を示しております。平時には①の感染症ワクチンと②ワクチンに応用可能な新規モダリティの研究開発について、アカデミアや民間事業者などを支援する枠組みとしております。また、感染症有事には平時のファンディングを通じて得られた知見や技術を活用し、迅速・機動的に対応することとしております。

次のページをお願いします。さらに、今般の戦略の改定を踏まえまして、赤枠のとおり支援の対象を治療薬、診断薬に拡大することを示したものになります。

35ページをお願いします。このページは本事業の公募枠の一覧でございます。大きく分けて①のワクチン開発と②新規モダリティ開発、その技術支援たる③の枠に分かれます。

事業開始当初はそれぞれ1つの公募のみでございましたが、公募状況などを踏まえ新たな公募枠を新設するなど、公募の仕方を工夫してきております。これまで49課題を採択し、47機関及び企業24社が参加し、研究開発を推進してきました。これにより、平時のうちから有事に備えた研究開発体制が構築されつつあると考えております。

36ページ、次のページをお願いします。このページは本事業における課題評価の体制を示しております。採択後はPS及びP0による研究開発の伴走支援に加え、各課題のマイルストーンでは進捗状況等を確認し、Go/No-go判断を実施しております。右下にあります、その結果、採択した49課題中11課題を中止しており、メリハリをつけた対応をしてきていると考えております。

37ページをお願いします。このページは本事業とほかの関連基金事業との関係を示しております。ワクチン戦略に基づき新設された基金は医薬品の開発フェーズに沿ってそれぞれ役割分担をしてきており、前のフェーズで開発されたワクチンのシーズが次の事業に導出されてきております。

次の38ページをお願いします。このページは本事業を基金事業として設定することの必要性を示しております。1つ目の○、ワクチン、治療薬の開発の進展に応じて資金を投入できる基金は予算不足等による開発の遅延を防ぐことが可能でございます。2つ目の○、感染症の予見は非常に困難でございまして、事態発生時により迅速に対応を開始する必要があり、基金方式である必要性は高いと考えております。3つ目の○、感染症は不確実さが多い一方、開発期間が長期に及ぶことから、民間事業者が平時から積極的に取り組むための事業予見性に乏しい状況でございます。感染症に対し引き続き民間事業者とともに備えるため、基金方式による国の積極的な関与を示し、事業予見性を高める必要があると考えております。

次の39ページ、こちらはワクチンを含む医薬品の研究開発コストと開発に要する期間について業界団体が取りまとめたデータを示しております。

40ページ、こちら参考ですが、業界団体からの要望の内容でございます。業界団体から市場予見性の観点からワクチン開発等について基金の形式が要請されております。

次の41ページと次の42ページ、こちらはワクチン枠及び新規モダリティ枠の研究開発、研究課題の紹介でございます。

43ページ、こちらが最後のページでございます。基金シートにも同じ情報を記載しておりますけれども、これまでの基金の執行状況及び今後の執行見込みを示しております。右上にも記載しておりますが、今般の国民からの御提案を踏まえた「点検の視点」を踏まえまして、外部有識者による事業全体の中間評価を今年度実施することとしたいと考えております。本事業は2031年度末の事業終了を予定しておりまして、引き続き適切な事業推進を行ってまいります。

説明は以上でございます。

○吉田企画調整課長　ありがとうございました。

それでは、質疑、議論に入りたいと思います。御発言のある方は挙手ボタンにてお知らせいただければと思います。

上村先生、お願いします。

○上村先生 関西学院大学の上村です。御説明ありがとうございます。

本事業はかなり特殊だと思っています。政策そのものの必要性についてはある程度重要だと思っていますが、平時の動き方と有事の動き方が全然違うわけですね。有事の際にうまく動けるように平時の動き方が想定されていると思っているのですけれども、ロジックモデルを見ると平時のロジックモデルになっています。これは指摘されているのですが、有事の際にどう動くのかがあまり想定されていないですね。

ただ、平時で有事を考えるというのは結構難しいと思っていて、そうだとすると、有事の際にうまく動けるような知見や知恵が蓄積されていることがこのアウトカムとしてどのように表示できるのかが結構重要かと思っていまして、ただ具体的にどうすればいいのか、私はあまりアイデアがないのですが、本事業によって日本の感染症対策の対応能力が高まっていることを平時においても示すことができるかどうかがこの事業のこのロジックモデルの結構重要なところかと思っています。これが1点目です。

2点目は、基金事業なのですけれども、この基金事業であるべきかという点です。パンデミックが突然生じることを考えると基金事業であるべきだという議論もあるのですけれども、政府は基金ではなくても予備費があるとある程度対応できるので、なぜ基金であるべきなのかはきっちり予備費との関係性において示すことが必要かと思っています。これが2点目です。

3点目です。この基金事業を有事に切り替えるときに、つまり平時から有事に切り替えるときの発動は誰がどうやって行って、それが適切にできたかを事後的に評価する仕組みが必要なのかと思っています。これが組み込まれているかどうかは気になっています。これが3点目です。

4点目、これは最後です。この基金の規模が適切なかどうかですね。1000億円ぐらいあるのですけれども、この積算根拠と、基金規模を見直すプロセスがこの事業に含まれているかどうかです。基金の規模は定期的に見直すプロセスが内部に組み込まれていることは重要だと思っています。

私からは以上です。

○吉田企画調整課長 ありがとうございます。

それでは、回答をお願いいたします。

○田中参事官 1つ目について、この基金は感染症有事にうまく対応できるかが一番の肝だと思っておりまして、有事にちゃんと動けるのかということが指標として表されるのか、表すように設定すべきではないかという御指摘だと受け止めました。今回の冒頭で御説明した戦略を改定する際にも同じような御指摘がございまして、資料で御説明すると31ページでございます。これまでのワクチン戦略にはなかった項目でありますけれども、⑩とし

て有事の対応の実効性を上げるための施策、このページの一番下に今回新設されたものでございます。先生に御指摘いただいた内容と同じ問題意識だと思いますけれども、しっかり有事に動けるように訓練あるいはシミュレーションを継続的に実施すべきだということが挙げられてございます。これに対応する評価指標、今のところは平時に有効に使っていくという観点で事業は2031年度を目指して指標を設定しているところでございます。

今後、訓練あるいはシミュレーション継続して実施していくこととしておりまして、これに関してこれまで病原体の輸送などを実施してきておるわけでございます。訓練自体が毎年同じようなことをしているのであれば、関連する指標を設定できると思いますが、他方で、毎年同じというわけではないので、指標の設定自体が難しいかというところはあるのですが、いずれにしても御指摘については何らか置く必要があるという問題意識は受け止めたので、何かしら、訓練の回数を置くか、そういうアウトプット指标的なものかどうかにとどまるかもしれませんが、そういった関連の指標が置けないかは今後検討したいと考えております。

2つ目の基金事業であるべきかどうかという御指摘でございます。今回も資料として38ページに記載している内容で、予備費でも迅速に動けるのではないかと御指摘ではないかと思いますが、一番重要だと思っておりますのは38ページの上の枠の3つ目の○でございます。感染症については事業の予見性が乏しい状況がございまして、民間の製薬企業が参入してくるのがなかなか難しい、参入している数も少ない状況にありまして、基金という形で国の積極的な姿勢を示しておくことも重要かと思っております、引き続き民間事業者とともに備えるという観点で予備費ではなくて基金を準備しておく形は適切ではないかと考えておるところでございます。

3つ目、平時と有事の切替えの御指摘で、今回のエボラ出血熱あるいはこの下に例を示しておりますけれども、ハンタウイルス、こちらについてはまだ感染症有事ということで動いているわけではございませんけれども、これについてはなかなかどういうタイミングでやるべきというところはこれからも考えていかないといけない、その状況に応じて柔軟に判断していく必要があると考えておるところでございます。こちらについては有事になった後のある程度の動きなりについては整理をしているところでございますけれども、実際にどういうタイミングで行うかについては、その時々状況に応じて柔軟に動いていく必要があるかと考えております。

最後は積算根拠であります。当初は約1500億円という形で基金を設定しています。ワクチンについては4つのワクチン、それに応用できる技術として新規モダリティについては3種類のモダリティを得ることを目指して積算したと理解しております。ワクチンについては失敗したコストも含めまして300億円ほど、新規モダリティにつきましては第Ⅰ相の終了までということでございますので、それにかかる費用として約30億円、これを掛け算して大体1500億円というところを積算したと理解しております。

それでお答えになっておりますでしょうか。

○上村先生 基金の規模を見直すプロセスがこの事業に組み込まれているかどうかをお聞きしていいですか。

○田中参事官 まず、この基金がしっかり動かされているかということについては、36ページを見ていただければと思いますけれども、詳しくは御説明を省いたところでございますが、この真ん中のイメージのところにありますけれども、SCARDAにおけるワクチン研究開発の戦略についてはこの戦略推進会合というものを、政府の関係省庁と有識者の先生に入っていただいて定期的に開催してウオッチしているところでもあります。さらに最後のほうで御説明しましたが、基金の規模が適切か、あるいは事業の内容がしっかり進んでいるかについては最後の43ページに記載しましたが、今年度で中間評価という形で外部有識者の先生による事業全体の評価を実施したいと考えております。そのような中で事業の規模も含めてしっかり見ていただこうと考えております。

○吉田企画調整課長 上村先生、よろしゅうございますでしょうか。ありがとうございます。

それでは、高木先生が手を挙げているようですが、高木先生、お願いします。

○高木先生 高木と申します。御説明ありがとうございました。

私からは3点御質問させていただきたいと思います。

1点目は、上村先生が御質問なさったことと重複するので繰り返しに一部になってしまっただけなんですけれども、まず有事のときを見据えた事業であるというところで、そこがどのように担保されているかがすごく気になるところです。例えばこの事業をやっている背景としてコロナのときのパンデミックの対応に対する反省ということがあるのであれば、そのときにできなかったこういうことがこの事業を実施することでできるようになった、前回の事前勉強会でもお話があったと思うのですけれども、そういったことを何か言えないか、そういうことがあれば教えていただきたいと思います。適切な例か分からないですけども、海外にワクチンを依存することによって数の確保に時間がかかるという話、それを国内でやることでより迅速に届けられることができるということですか、国内の研究開発体制をより強化することで今後のワクチン開発体制にこういった効果があるみたいな、そういったことを過去の振り返りということから言えないかと。あとは、前回海外、特にアメリカなどは国防の観点でこういうことをやっているので予算規模も全然違うというお話はありましたけれども、海外では有事に対する対応をどのように評価しているのか、何か参考にできるものはないかということが1つ目の質問です。

2つ目の御質問としては、中間評価を実施されるということなのですが、その評価の観点では先ほどお見せいただいた資料にあるようなこの事業のレビューシートのKPIで設定されているようなものを見るということで合っていますか。その中に有事対応みたいな言葉もありましたので、併せて教えていただきたいと思います。

3つ目は、非常に細かい話なのですが、アウトプットからアウトカムにつながりのところで、アウトプットが会議開催件数みたいなものになっていて、その次に事業の直

接的な効果に関わるようなPOCの話などが出てくるかと思うのですが、そのつながりが弱いのかもしいないかと思っております。会議の開催件数の代わりに例えば採択件数や応募に手が挙がった件数みたいものを見ることはできないのだろうかということを考えたところで、3つの御質問でございます。よろしくお願いいたします。

○田中参事官 御指摘ありがとうございます。

1つ目の有事を見据えた対応で、コロナのときにできなかったこと、コロナのときとの対比で考えることはできないかということでございますが、コロナのときに年末から年始にかけて新たな感染症が発生したということを受けて、あのときにはその年の4月の末に補正予算が新たに成立し、政府としてはそれに基づいて対応をいたしました。それまでの間にSCARDAが属するAMEDの中で使える研究費をその時点で集めて、至急でそのときに使える技術の開発支援を行ったという対応をしております。次の有事の段階でこういった形で進むのかを今の段階から頭の体操をしております、どのように効果測定していいのかは非常に大事だと思っているものの、どういう形でやったらいいのかというところは今もってなかなか難しゅうございますので、そこは引き続きどういう形で有事にこの事業の有効性や中身を評価できるかは考えていきたいと思えます。

○笠谷企画官 有事のところへのつなぎの補足といたしまして、今ほどのコロナの話にもあったのですが、まさにコロナのときは研究開発体制や民間事業者も含めての関与という体制が弱かったところもあって、コロナが起きて、先ほどの補正などもつけて、それはあったのですが、そこから研究体制を構築していくということもあって非常に時間がかかったと認識しております。ですから、今回この有事を見据えての対応ということは、平素からこのような研究開発をしていて、コロナのときにメッセージRNAという新しい方法ができましたが、今のうちからそういう新しい方法がないのかを検討しておきます。

その際、今度来る感染症はコロナではなくまた違うものが来るのですが、感染症自体は未知のものかもしれませんが、メッセージRNA技術のような新しい技術が未知のものにも使えるかもしれないということもあって、平素のうちからこのような新しい方法を研究しておく、またその体制もつくっておく、いざ有事が来て新しい感染症が来たときはその新しい方法がそれに適用できないか、有事に備えての武器を多めに用意しておく、人、体制を用意しておくことが平時での有事を見据えての準備かと思っております。

○田中参事官 海外では有事にどのように対応しているのかというお尋ねがあったと思います。これについては事前勉強会でも申し上げたような気がしますけれども、アメリカでは、国防的な対応を行うBARDAという組織がございまして、ここで2020年にコロナのワクチンの研究開発、これを実生産の費用も含めて一気に支援すると。これもついでの調査がありますけれども、約1750億ドルの契約を行って迅速に対応したということがございます。日本では予算の制約もありますので、今の基金の中でまずは対応することになると考えております。

中間評価の観点でございますけれども、一般的な内容にはなるとは思いますけれども、特

に重要なのは有効性の観点、もともとのプロジェクトがございすけれども、目標達成に向けた進捗状況ということで、どれぐらいの課題を採択して、どの程度進んでいるのか、個別の課題ごとの評価、あるいは全体として有事に向けた対応ができているのかといったところを中心に見ていくものと考えております。有事における対応、こちらについても御指摘を踏まえまして、有事に向けた準備がどの程度しっかり進められているのかといった観点も踏まえて、しっかり中間評価をしていきたいと考えております。

アウトプットとアウトカム指標についてのご指摘、46ページの参考資料につけておまして、小さくて恐縮でございすけれども、御指摘はこのアウトプットのところが活動指標ということで専門家による研究開発支援の伴走支援のための会合、こちらは先ほどPSP0会合と御説明した内容でございまして、研究課題ごとに有識者の感染症の専門家あるいは実際に製薬企業で開発に携わったことがある有識者の先生に入っていて、伴走支援ということでそれぞれの進捗を各先生に御報告いただきながら、こういう形で進めていったらいいのではないですかといった形で伴走支援をしっかりとしております。これがこの事業の肝である部分ではあるのですが、実際に個別の課題ごとにどれぐらい進んだのかという伴走支援の重みというか、その中身についてなかなか指標として表しにくいところがあって、会議の回数という計測しやすい部分を設定しているところでございす。

御提案の採択課題数そのものについて設定できないかということについては持ち帰って検討したいと思いますが、我々の思いとしては、この伴走支援をしっかりとしていく、その中で各課題が先に進んでいくと、次のアウトカムとしてはそれぞれ非臨床試験から臨床試験に進んでいくという形で、短期から中期、長期にわたって課題が進んでいくというところをアウトカムで表して、アウトプットとしてはそれを支援する伴走支援の回数というところが分かりにくいというか、それで表されているのかという御疑問、問題意識があるのだと思いますけれども、それについては今々は会議の回数ということで設定させていただいている状況でございす。

○高木先生 御丁寧にありがとうございました。

伴走支援が大事ではないという意味ではなくて、会議を開催することを増やしてもアウトカムを高めることにはつながりにくいような見え方になってしまっているのので、何か質的なものをうまく取り上げられないかということで申し上げた次第です。

海外について御説明いただきましたが、質問が分かりにくかったかもしれないので補足させていただくと、有事の際の効果検証、平時とつなげたことについて海外でどのように検証しているのかみたいなことがもし分かれば、それが参考になるのではないかとということで申し上げさせていただきました。規模感が違うのは残念ながらいかんともしいところかと思っておりますので、もしそういった情報があれば御参考にしていただければという趣旨でございす。ありがとうございました。

○田中参事官 ありがとうございます。

そういった情報、今、手元にございませんで、もしあればそういうものを参考に考え

たいと思います。

○吉田企画調整課長 ありがとうございました。

それでは、山田先生から挙手ボタンがありますので、山田先生、お願いします。

○山田先生 会計士の山田です。

この事業に関しましては、本当に勉強不足で申し訳ないのですが、僕は全然知らなくて、こうやって平時のうちから有事に向けての対応をする仕組みであったり、さらに基金であったりというものがあるのだというのは非常に勉強になりましたし、非常に大事だと、重要なことだと非常に評価しております。

それを踏まえてコメントを1点、質問を1点なのですが、コメントについてはほかの先生方もおっしゃっているのですが、有事のための備えであるという以上、何かしらそれが定量的に分かる、平時から有事にこれだけ準備できていますよ、つまりこれがあることによって期間がこれだけ短縮されますとか、何かしら因果関係はあるのではないですかというのは、素人考えで申し訳ないのですが、そこは非常に大変だというお話はさんざん伺いましたので、頑張ってくださいませというところでございます。何かないですかねというところです。

今度は質問というか、ここに触れなければということがありまして、これは以前の行政事業レビューでもあった点なので、ここでも改めて申し上げることになりますが、ワクチン開発などこの関係のものは当たれば物すごく巨額な利益が出るものだと認識をしております、実際、コロナのときも海外のメーカーなどがすごくもうかったというのは報道などでも目にするところではありますが、そこで国がリスクを負って民間が利益だけを得るとするのは国民感情としていかがなものかと。今回これは国民からの視点が必要というところもあるので、基金ですので、その点、いわゆるロイヤルティーの設定とか、知的財産権の一部を共有するとか、そういったいざ本当にそこで莫大な利益が出たときに国に還元する仕組みが去年の事業レビューを踏まえどの程度進んでいて、今後どうなのかというところをお伺いできればと思います。

○田中参事官 御指摘ありがとうございます。

1個目のコメントについては、平時の段階ではそれぞれワクチンなり新規モダリティとして新しい応用技術、こちらのタマを増やしていくところに主眼を置いておりまして、いざ有事にそれが使えるかどうかというところはありますけれども、それに備えて今後も着実に数を増やしていくところに注力したいと。有事になったらこれまでの準備を含めてしっかり動けるようにしたいと考えております。

2つ目の、ワクチンの開発によって利益が出たものについてどのように対応するかについて、前回御指摘があったということでございますが、これについてはこの事業のことかどうか私も承知しておりませんが、開発したもので利益を生み出して、それがそのまま民間の利益になってはよくないのではないかと問題意識の御指摘だと思います。それについては契約なりでその辺の整理があったものと思いますが、それについても不当な利益

が出ないような形でこの基金事業についてはしっかり運用していきたいと思います。

○笠谷企画官 追加で補足させていただきますと、先生御指摘のように確かにワクチン等が当たって企業に利益が出るということで還元ということは必要なことなのかもしれませんが、ただそもそもワクチンも含めてこういう創薬分野の成功率は、この資料にも示しておりますが、非常に低くなっているということがございます。相当投資して成功するのは1%とかそれぐらいの世界だということがございます。このワクチンのパンデミックのときは、まさに国にとって、国民にとっても生きるか死ぬかのところでございまして、先ほど委員も述べられましたが、これは開発ができることによって日本の国民に他国よりも一刻も早く来るというところもあって政府としては支援するところがございます。結果、製薬会社がもうかるということはあるかもしれません。

ただ、ワクチン分野は非常に難しいところがございまして、例えば我々は2021年の夏から接種をして、皆さん打ったのですが、メーカーもそのときはかなりもうかったようでございますが、その後もこれだけ大きな生産ラインをつくりましたので、その翌年、その翌々年も結構な数をつくったのですが、先生も御存知かと思いますが、我々も恐らく臨時接種は成人の方は4回目ぐらいまでしか打っていないかと思っております。今、高齢者の方が打たれていますが、国全体で見ると接種の数は相当減ったこともあって、ただ生産ラインはそれだけありますので、ここ最近はこのワクチン分野はそんなにはもうかっていないところもあって、製薬会社にとってはこの分野は乗り出すのが非常に難しいところもあって、そもそも開発に対して関与させる、企業に対して予見性を持たせるということでこの基金というか、国としての補助を行っているところはまず一義的にあることは御理解いただければと思います。

ただ、御指摘の知財についても、そこはちゃんとしっかり留意したいと思っております。

○山田先生 ありがとうございます。よく分かりました。

とはいえ、国民のいわゆる税金で企業にとってのリスクを低減させる面があるので、例えば知的財産権の一部を持っていれば国が買い取るときの政府調達価格を下げられるとか、国内の業者が買う場合は低くできるとか、単純にもうけの契約ではなくて日本国民にメリットがあるような契約だったりとか、本当にいざというときですけれども、何かしらあるのではないですかということは会計士としては思いました。

僕からは以上です。

○吉田企画調整課長 ありがとうございました。

議論、質疑の途中でございますけれども、有識者の皆様におかれましては並行してコメントシートへの記入を始めていただければと思います。よろしくお願いします。

それでは、質疑、議論を続けたいと思います。

南島先生、お願いします。

○南島先生 南島でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

今日のお話を聞きながら、コメントになりますけれども、申し上げたいと思います。

そもそも研究開発の成果についてスポットが1つ当たっていたかと思いますが、これは最終的には今後の課題とならざるを得ないのかと。今、問うても出てこないものかと思っております。この場合、研究基盤や体制整備が進んでいる、この点を指標として見ていくべきではないか、そのように思っています。研究基盤、創薬に関してどのような、いろいろな機器なども要るでしょうし、人員も必要かと思いますが、そういうところの充実度合いを見ていくことが重要かと。

そのうちの1つになると思いますけれども、先ほども他の委員からも言及がありました、応募件数、採択件数ですね。これも単純にその数字だけ出すと何だろうということになるかもしれませんが、経年で取っていけば、1つは研究領域の裾野の広さという見え方もあるのではないかと思います。以前、御説明いただいた際にできるだけタマが多い状態で次の入り口を迎えることが重要ということをお願いしていたかと思うのですが、そこにつながるのではないかと、このように思っています。

もう一点、基金についてですが、研究基盤整備、体制整備は、いざ危機が起きたときに基金が活用されるという側面がある、要するに2側面があると思うのですが、これをつなげて一体として議論していただいているかと思うのです。御担当の部局としては当然そのようにお考えいただいている、それも理解できる場所なのですが、基金の在り方について議論したり指標を置いて管理するという議論をする場合には、一旦切り離してみることも一案として考えられそうに思います。その中で、今日は出てこなかったのですが、特に私が気にしているのは、有事の際に本当に十分な水準の基金が積みまれているかどうか、この点かと思っております。

以上、コメントですが、何かレスポンスしていただければ幸いです。

○田中参事官 御指摘ありがとうございます。

1点目の体制整備についてどういう測り方があるのか、どういう形で測れるかも含めて、御指摘のとおり体制が進んでいるというところを見るのも大事かと感じましたので、どういう形で測れるかというところは心配ではあるのですが、そこはしっかり検討したいと思います。

応募件数と採択の件数についても、これは実際に応募として数としてはあるもので、こちらについても入れる形で考えたいと思います。ありがとうございます。

○吉田企画調整課長 ありがとうございます。

まだ時間は15分程度でございますので、御質問、御意見等々ございましたら挙手ボタンでお知らせいただければと思います。いかがでしょうか。何かございますでしょうか。

特にないようでしたら、一通り御意見を頂戴いたしましたので、議題2はここまでとさせていただきますと思いますけれども、よろしゅうございますか。

それでは、議題2の議論につきましてはここまでとさせていただこうと思います。

会議の終了後、推進チームで有識者の皆様からのコメントを集約しまして南島先生にお

送りさせていただきますので、南島先生におかれましては取りまとめコメントの作成をお願いいたします。

それでは、以上で「ワクチン・新規モダリティ・治療薬等研究開発事業（基金）」についての公開プロセスを終了させていただきます。

高木先生の御担当はここまでということになります。どうも御協力ありがとうございました。

○高木先生 ありがとうございました。失礼いたします。

○吉田企画調整課長 次の議題につきましては、15時20分から「地域未来交付金」について御審議いただきます。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、休憩といたします。ありがとうございます。